

3人の代表が心に残るスピーチ

今年度の「二十歳を祝うつどい」に1348人

4年ぶりでしょうか、上越市の「二十歳を祝うつどい」に行ってきました。二十歳になった1855人のうち1348人が参加したということです。市長や市議会議長の激励やお祝いの言葉に続いて、3人の代表がスピーチしました。

トップにスピーチした荒川貴斗さんは、「能登半島地震の被災地の姿を見て少しでも支援できればと思っています。ともに困難に立ち向かい、未来を切り開いていきましょう」とのべました。続いて中村真美さんが、「上越は私の心の中では特別なまち、このまちを誇りに思う。いままでお世話になった恩返しをしながら一瞬一瞬全力で生きていきたい」と決意を語りまし

た。最後に平原真宏さんが「ロシア語で“ミール”は“平和”“世界”という意味だ。平和と世界がなせ一つになっているか。平和であってこそ大きな世界を見ることが出来るから。上越市は非核平和友好都市だ。全世界の平和を目指して生きていこう」と訴えました。

いずれも心に残るスピーチでした。左上のイラストは開会前の様子です。左下のイラストは左から、荒川さん、中村さん、平原さんです。

今回も会場はリージョンプラザでした。会場周辺ではコブシやソメイヨシノが花を咲かせ始めていました。二十歳のみなさんの今後の活躍を期待します。頑張ってください。



馬場県議と共に議会報告

馬場秀幸県議と共に市内で議会報告会を開催しています。それぞれが県議会や市議会の様子を報告し、その後、参加者と懇談しました。

6日は、吉川区内で実施した2つの町内会での報告会では、県政や市政について活発な発言が続きました。その中では、「労災病院を何とか存続させてほしい」「妙高病院は妙高地域の観光、スキーのためにも重要な医療機関」「農業の担い手がいなくなっている。若い人が農業で生きられる思い切った支援策を」「コウノトリが住み着くまちづくりを」などの声をいただきました。今後の活動にかしてまいります。



市内各小中学校で入学式

市内の各小中学校では、このほど入学式が行われました。

私は地元の吉川小中学校の入学式に行ってきました。このうち吉川小学校の今年度の新入生は10人。入場の時は緊張気味でしたが、退場の時は保育園の園長さんとハイタッチ、とてもいい雰囲気でした。

公職選挙法上の制約もあり、次回の活動レポートは4月21日ではなく、4月28日に発行します。よろしくお願ひしま

【コシノコバイモ】ユリ科の多年草。漢字で「越の小貝母」と書きます。春に咲く可憐な花のひとつです。カタクリやスミレと一緒にすることが多いです。花期は4月～5月。下向きに白い花を咲かせます。花言葉は、「母のやさしさ」「高貴」など。写真は4月7日、吉川区上吉井にて撮影しました。



はしづめ法一の活動レポート

No.2153 2024.4.13

発行編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず

Tel 025-548-3628

通じないときは 090-5392-1961

E-mail hasiznyg_0808@yahoo.co.jp

URL <https://www.hose1.jp/>



ブログ「ホーセの見である記」はこちら

橋爪法一

検索

春よ来い

第八〇〇回「百歳の誕生日」に

二〇二四年三月二七日の朝のことです。パソコンを立ち上げた瞬間、「そうだ、きよは母の誕生日だ」と思いました。

母が生きているときでも、母の誕生日は忘れていたことがたびたびあったのに、どうしたことでしょう、この日の朝、母の誕生日であることがすべしに浮かんだのです。

振り返ってみれば、一年半前に母が亡くなるまでは、「百歳になるまであと三年だ」などとずっと百歳到達を意識してきました。特に九〇歳を超えてからは、母の誕生日には原之町の小浜屋菓子店にケーキを頼んだり、長年住んできた尾神岳のふもとにあるスカイトピア遊ランドで連れ合いのキョウダイたちと一緒に祝ったりしてきました。だから、その延長線上で母の誕生日を思い出すことはありうる話です。

八日が母の月命日ですので、この文章を書いているいまは、母が亡くなってちょうど一年六か月というところになります。

当然のことながら、母が使っていたベッドも電動椅子も「く」返却してあります。でも一年六か月前と同じように、私はいまも母の部屋で寝起きしています。それが親孝行になるかと思っているわけではありませぬ。二階の私の部屋に戻り、母と一緒に寝起きする前のように、夜中に階段を上り下りする自信がないうつです。

母のベッドや電動椅子はなくなりましたが、わが家の居間には以前と変わらず、ディスプレイでももらった母の誕生日の写真とスタッフの皆さんのメッセージが飾ってあります。これはずっと以前からのことですので、わが家の日常に溶け込んでいます。

母が亡くなって大きく変わったのは母の部屋にも居間にも母の動く姿がないことです。それにはだいぶ慣れてきましたが、最近、どういふわけか、母の晩年の出来事がふっと思い出されるのです。例えば、私がトイレに入っているときに、介護スタッフ

のSさんだったか、Tさんだったかよく覚えていないのですが、突然、戸を開けて、「あら、ごめんなさい」と言ったときのこと、看護師のYさんやKさんが母の部屋に入ってきて、「おはようございます」「こんにちは」などと母に声をかけてくださったときの様子などが浮かびます。

三月二七日の朝はゆっくりにできたので、部屋の中のモノを見てみました。介護スタッフのみなさんの手書きの母の介護記録をさがして、押し入れの中を久しぶりに開けて見たら、母の愛用の餅つき機と押し寿司で使った木製の箱がありました。これは懐かしかったですね。

このほか、私がこれまで見たことのないアルバムが一冊、目にとまりました。アルバムとはいっても写真が貼ってあったのはわずか一ページだけで、六枚の写真しかありませんでした。そのうちの一枚は平成二年六月に実施された吉川町老人会の旅行写真で、そこにはキンジロウさん、カナメさん、イチロウさんなどと一緒に行った父の姿も写っていました。他の写真はすべてわが家の写真です。このアルバムを見つけたことで父のことも思い出しました。

そうしたなかで、切なく思い出すのは弟のイサムのことです。近くに住んでいたこともあって、仕事の合間によく母の様子を見に来てくれました。ベッドの母を見て、「ばちや、おまん、いい顔してるねかね。これなら大丈夫だ」などと声をかけてくれました。その母親思いの弟が母の一周忌法要の翌日に急死したことはいまも信じてることができません。

母の遺骨は現在もわが家の座敷にあります。その横には弟の遺影も置いてあります。この日は、「ばあちゃん」「イサム」と二人に声をかけました。そして久しぶりに、母の骨が入った小さな袋を胸の中に入れて、ぎゅっと抱きしめました。

坂田池観桜会、今年も楽しく



柿崎区の坂田池での観桜会は7日、開催されました。サクラの花は三分咲きくらいでしたが、コミュニケーションバンド、「ポアス」の演奏では、踊りが次々披露され、たいへん盛り上がりがありました。



上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	4月3日(水)	4月10日(水)
上越南消防署	0.057	0.057
上越北消防署	0.043	0.050
新井消防署	0.050	0.043
頸北消防署	0.050	0.050
頸南消防署	0.067	0.060
東頸消防署	0.040	0.040
名立分遣所	0.053	0.040
高士分遣所	0.050	0.053

善長寺の掲示板

吉川区にある善長寺の4月の掲示板です。野の花の上をやさしく風が吹いている。その光景がよく見える素敵なお景です。

